



# 全国大会 参加報告

## ～ 2023 冬の舞 ～

---

・高円宮妃杯 JFA第28回全日本U-15女子サッカー選手権大会

---

## 高円宮妃杯 JFA 第 28 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会」参加報告書

兵庫県 2 級審判員 小西悠子

### 【はじめに】

今回 12 月 8 日～9 日の 2 日間にかけて、第 28 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会に参加させていただきましたので報告いたします。

関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の推薦があり参加することができたこと、大会関係者並びに、お世話になった三重県サッカー協会の方々に感謝いたします。

### 【大会概要】

日程：2023 年 12 月 9 日（土）～12 月 27 日（水）

会場：三重県（他 5 会場）

### 【事前 zoom 研修会】

- ・大会本番に向けての心構え
- ・どんな事態にも対応できるような心の準備
- ・大会に向けての心の準備
- ・大会を必ず達する（成功させる）意気込みを含んだ心の準備

大会を成功させるために、準備が重要であるということ。



## 【試合】

### 1 回戦 常葉大学附属中学校 4 - 0 日置シーガルズ FC

主審：関川伽音 副審：小西悠子・中村悟 第4審：浅田景一郎

アセッサー：山岸佐知子

初めてのメンバーでの審判はとても不安でしたが、積極的にコミュニケーションをとり試合に挑みました。

試合内容は、序盤から日置シーガルズが押し上げていたがなかなか点を決められず、前半11分に常葉大学附属中学校が先制した。後半も常葉大学附属中学校の勢いは落ちず立て続けて点が入った。試合を通して大きなファウルもなく安定した試合流れで試合が終わりました。

(副審を担当し反省点)

- ・DF前後の動きが多く、最終ラインをキープできず少しずれていた。
- ・副審の反対側サイドでボールをキープしながら攻めている選手を見ようとしてタッチライン上を移動する 때가あった。
- ・タッチジャッジの時、主審を待たず判定してしまった。
- ・焦ってしまいフラッグを左手で上げてしまった。

(改善点)

- ・ボールを蹴る選手を間接視野に入れながら最終ラインをキープする。
- ・タッチラインを常に間接視野に入れピッチと並行を保ちながら移動する。
- ・フラッグテクニックを使いながら主審と確認しあう。

主審と同様に副審も視野の確保が大事だと思いました。

### 2 回戦 FC今治レディース NEXT 1 - 1 A.Cgloriagirls

PK (4-2)

主審：小西悠子 副審：海野晴香・浅田景一郎 第4審：田中健太

アセッサー：山岸佐知子

前日、A.C gloriagirlsの試合を見ていて、ドリブラーの選手が多く、自らつまづいてないか、足がかかってないか、ボールに正当にチャレンジをしているかを、しっかり判定できるようにしようと思いました。

試合内容は、MCM時と違うユニフォームを着用していた為、試合開始間際ユニフォームを交換する時間を取った。そのことで、試合時間が3分遅れてしまいました。



試合が開始し、両チーム互角の戦いで、PK戦までいきました。

後半 32 分警告を出したプレーがあり、後方から相手競技者に足にタックルした場面でした。退場となってもおかしくない場面なのですが、勢いはなく距離も近かったので警告としました。

(反省点)

- ・ユニフォームは、絶対に打ち合わせ時の物を着てくるだろう。と思い込んでしまった。
- ・争点ばかり気になり、視野が狭くなりオフサイドを取るのが遅れた。
- ・積極的に選手とコミュニケーションを取りゲームコントロールをしていたが、その結果、いやらしいプレーや危ないプレーの声掛けのメリハリがなくなった。

(改善点)

- ・大きな大会は想定外のことが起こると、頭の中に置いておく。(思い込みを持たない)
- ・縦にボールが蹴られたら、常に副審を見る癖をつけておく。視野を広げる。
- ・ここだけは譲れない危険なプレーには注意するなど、声掛けにメリハリをつける。

### 【まとめ】

この度は、初めて全国大会に審判員として参加させていただき、2日間を通して、主審・副審を経験させていただきました。ありがとうございました。

今回の大会で私の目標は、選手が気持ちよく試合できるように審判するでした。

その為には、選手だけでなく初めて組む審判員の方々としっかりコミュニケーションをとることで、試合中に選手の笑顔が見られたり、審判員の方々ともアイコンタクトで助けて頂くことができました。自分の現時点での教わったことを最大限出し切れた気がします。課題もたくさんありますが、これからもこの経験を活かし関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会のお役に立てるよう、日々精進したいと思います。



# 高円宮妃杯 JFA 第 28 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会 参加報告書

兵庫県 2 級審判員 西嶋咲音

## -目次-

- 1.はじめに
- 2.大会概要
- 3.事前研修内容
- 4.担当試合の振り返り
- 5.まとめ



## 1.はじめに

12月9日に開幕いたしました、高円宮妃杯 JFA 第 28 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会の参加報告をさせていただきます。関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に日頃からのサポートを感謝申し上げますとともに、運営していただいた全ての大会関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 2.大会概要

日程：2023年12月9日(土)～12月27日(水) ※その内、9.10日の1.2回戦に参加

派遣地：栃木県

大会形式：全国9地域において選出された32チームによるノックアウト方式

## 3.事前研修内容

### キーワード『アンテナを張る』

・自分達が行うべき事は、

- ① 競技役員としての役割を果たす
  - ② 試合をスケジュール通りに始めて無事に終了させる(+フィールド上のパフォーマンス)
- ・オフザピッチ⇄レフェリング、両方の場面で常にアンテナを張り、どのような準備をするか、どのような行動を取るべきか、考える。

#### 4.担当試合の振り返り

〈1回戦〉

**三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース 1(PK2-4)1 JFA アカデミー福島**

主審：西嶋咲音 副審：小林幸子氏（関東）、門井美由紀氏（関東）

第4審：菅又英明氏（関東）

Ins：藤ヶ崎敦氏

関東地域第1代表の浦和レッズと前回大会優勝のac福島が1回戦で戦うという注目の試合を担当させていただきました。試合は両者譲らない展開が続きましたが、後半に浦和レッズが先制点を挙げました。しかしそのわずか1分後、DOGSOでac福島がPKを獲得、同点弾を決め、最後はPK戦でac福島が勝利しました。

この試合の大きなポイントとなったのはやはり浦和レッズのDOGSOのシーンでした。ac福島の選手がPA内でゴール方向に切り込んだ所を、浦和レッズの選手がボールにプレーしようとチャレンジをし、結果的にac福島の選手を倒してしまったため、即座に笛を吹き、ペナルティーマークを指し示しました。そしてDOGSOの4要件を満たしていると判断しPKを与えたことから、ファウルをした浦和レッズの選手にイエローカードを提示しました。この事象が起こった時、自分は争点をはっきりと見えるポジションにおり、距離感や角度も良かったため自信を持って判定する事が出来ました。インストラクターの方からも納得できる場所から正しく見極めることが出来ていたと振り返っていただきました。

一方でサイドチェンジの時など、プレーを自分の前に持っていきたいがために毎回後ろに下がってしまい、出遅れたり元々後ろにいた選手の邪魔になってしまいそうになったりしたため、前方向に動いて体を反転させる意識がもっと必要だと感じました。

〈2回戦〉

**北陸大学フィオーレ 0-1 神村学園中等部女子サッカー部**

主審：土屋花氏（北海道） 副審：西嶋咲音、沢田静氏（関東）

第4審：西念美紀氏（関東）

Ins：浅井昭子氏

この試合では副審を担当し、打ち合わせで要望があったシグナルのタイミングを主審に合わせる事や、再開位置のポイントなど細かい所もしっかり審判団でコントロールしていく事をテーマに試合を行いました。試合中はいつも以上にアイコンタクトを取りに行き、主審が何を注意しているか、どんな可能性を考えているのかなど、主審が必要とするサポートがいつでも出来るようにアンテナを張り続けていました。試合後には、タッチジャッジやオフサイドも良いタイミングでサポートしてもらえたと主審の方から言っていた

だけました。

インストラクターの方との振り返りでは、GKの遅延行為が取り上げられました。この試合ではリードしていた神村学園よりもフィオリーレの方がパントキックやゴールキックが遅い傾向にあり、負けている側のチームだったため主審は早い段階での声掛けが出来ませんでした。しかし遅延行為は点差とは関係がないものであり、ゲームのテンポを遅くさせてプレー時間の確保を阻害する行為であるため、主審の中の基準を明確に示していくことが重要だと感じました。

## 5.まとめ

今回の派遣を振り返ると、良かった事の収穫が多くあったと感じております。ピッチ内では試合を大きく左右する判定が出来た事が自信にも繋がり、後輩レフェリーのサポートという点でも自分の心の余裕を実感することが出来ました。またピッチ外では自分の役割を考え積極的に動き、大会の成功というところに少しでも関わったのではないかと感じております。全国大会派遣は4回目となり、顔なじみの方も増えた一方で、初めてお会いする方や地域派遣の方との交流はやはりとても嬉しいものでした。会場の運営の方々にも大変良くしていただき、改めて試合が出来ることの有難みを感じる事が出来ました。今後も試合に関わる全ての人の存在を忘れることなく、自分がやるべき事を精一杯取り組んで参ります。何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

以上で大会参加報告を終わらせていただきます。最後になりましたが、今回派遣を承認して下さった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

